

平成25年3月29日

関係各位

世田谷区立船橋希望中学校  
校長 徳永啓介

## 平成24年度学校関係者評価委員会の報告を受けた改善方策

学校関係者評価委員会の皆様方には、1年間にわたり熱心な分析・検討を経て、「学校関係者評価委員会報告書」をご提出いただきました。その労に深く感謝申し上げるとともに、次年度の学校経営にいかしてまいりたいと存じます。

関係者評価委員の皆様からは、統合1年目で、生徒・保護者ともに様々な不安を抱えてスタートした状況の中、教職員の真摯な努力により、全般的に大きな問題もなく、正常な教育活動がなされ、成果の上がった1年であるという高い評価をしていただきましたが、総合所見から以下の課題を提言していただきました。

1. 学校全体にかかわる情報の広報活動を充実させることの必要性が感じられる。
2. 進路指導=キャリア教育のことが理解されるよう年間指導計画や情報提供の改善が望まれる。
3. 教職員の評価との乖離がある項目について、生徒の変容などを捉えて自己点検をする必要がある。

これらについて、平成25年度は下記のように取り組んでいきます。

### 記

#### 1. 学校全体にかかわる広報活動の充実

- (1) 学校全体に関わる広報活動を充実させるため、定期的に学校便りを発行する。
- (2) ホームページの認知度を高めるため、「校外学習での進行状況」や「生徒の部活動や地域での活躍」をホームページで積極的に発信していく。
- (3) 保護者会、PTA運営委員会、学校協議会等でホームページのPRを行う。

#### 2. 進路指導における情報提供の改善

1学年：「職業講話」、「職業調べ」、2学年：「職場体験（3日間）」、「上級学校訪問」、3学年：「上級学校訪問」「都立高校による訪問授業」「面接講座」「身近な進路調べ」を実施してキャリア教育に関する学習を充実させている。しかし、生徒・保護者ともに評価が低い項目になっている。

「キャリア教育」の授業は、道徳、特別活動などでも実施されていることを、保護者には、保護者会、進路説明会を通して、生徒には、授業の中で、「キャリア教育」の年間指導計画の説明を適宜行っていく。

#### 3. 教職員の評価との乖離がある項目についての自己点検

世田谷区における「学校評価システム」を教職員に理解させ、乖離ある項目を抽出し、学校独自の生徒アンケートを実施し、自己点検をより充実させる。